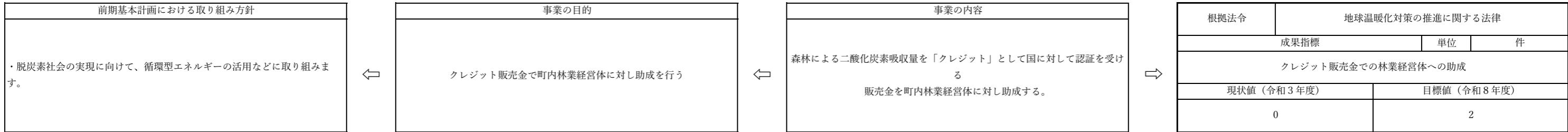


第4次久山町総合計画 前期基本計画対応 実施計画					分野		産業		政策	農業の恵み、森林の豊かさを守る				施策		森林を活用する			
実施年度	令和	6	年度	予算科目	会計	款	項	目	継続	事業名	Jクレジット活用事業				担当課		産業振興課		
					一般	6	2	1							担当者		田川 太一		

1. 事業概要



2. 実施内容（実績）

年度	令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度			
Plan (計画)	CO2吸収量(クレジット)の認証を受ける ・対象森林のモニタリング調査の実施 ・「Jクレジット制度事務局」による検証審査を受ける ・認証を受ける			昨年度、認証を授与した2021年度クレジット200tの売買を行う			昨年度の売買収益を元に、林業経営体への助成を行う ・2022、2023年度吸収量の認証を受ける			昨年度、認証を授与した2022、2023年度クレジット441tの売買を行う						
Do (実行)	2021年度クレジット創出量200tの認証を授与した			SAGA COLLECTIVEとの売買が成立した			猪野財産区への活動助成金を交付した 2022、2023年度クレジット創出量441tの認証を授与した									
活動実績	CO2吸収量(クレジット)の認証を受ける			売買契約の締結を行う			CO2吸収量(クレジット)の認証を受ける			CO2吸収量(クレジット)の認証を受ける						
成果指標	CO2吸収量(クレジット)の認証を受ける			売買契約の締結を行う			CO2吸収量(クレジット)の認証を受ける			CO2吸収量(クレジット)の認証を受ける						
Check (評価)	A	本事業は、クレジット創出計画の認証・対象森林のモニタリング検証を踏まえてクレジットの売買が可能となる。今年度は、モニタリング検証を行い、クレジット創出量200tの認証を授与することができた。			A	昨年度までの取り組みによって、売買可能となったクレジットを実際に販売することができた。			A	昨年度までの売却益から、町内林業経営体への助成金交付を実行できた。また、2022、2023年度クレジット創出量441tの認証を授与することができた。						
Action (改善)	現段階で改善点は無い。 今後も計画通りに進めていく必要がある。			現段階で改善点は無い。 今後も計画通りに進めていく必要がある。			現段階で改善点は無い。 今後も計画通りに進めていく必要がある。									
事業費	予算		決算		予算		決算		予算		決算		予算		決算	
直接事業費(歳出)	0	(千円)	0	(千円)	0	(千円)	0	(千円)	576	(千円)	576	(千円)	0	(千円)	0	(千円)
事業費財源	0		0		0		0		576		576		0		0	
特定																
地方債																
一般	0		0		0		0		576		576		0		0	
人件費	63.184		53.776		60.36		0		59.768		58.392		0		0	
人員数	0.008		0.008		0.008		0.008		0.008		0.008					
人件費単価	7,898		6,722		7,545				7,471		7,299		7,767			
事業費合計	63		54		60		0		636		634		0		0	
町民一人あたりの負担額	#REF!	円	#REF!	円	#REF!	円	#REF!	円	68.274	円	68.126	円	0.000	円	0.000	円

令和6年度事業評価シート

事業番号	事業名
産業1-6-78	Jクレジット活用事業

PLAN(計画)⇒DO(実施)については総合計画進捗管理票にて記載

CHECK(評価)

自己評価	評価者	田川 太一	5 大 ← 小 1 1
1. そもそも必要な事業か?			
<p>町民のニーズが増加傾向である。 緊急性が高く、即時に実施しなければならない。 実施しなければ町民生活に及ぼす影響が大きい。 町民生活や町のイメージアップの向上に寄与する。</p>			
評価理由 日本国内で削減または吸収された温室効果ガスの量を、国が認証する仕組みとして、町のイメージアップに寄与していると考える。			
2. 町が実施する必要があるか?			
<p>町が実施主体となることが法令等により定められている。 公権力行使、あるいは政策判断を伴い、民間等では実施できない。 民間等や国・県で実施するよりも効果的である。 民間等あるいは国・県で類似事業を実施していない。</p>			
評価理由 今計画の対象森林が町有林であるため、町が計画実施者として取り組んでいるため。			
3. 実施内容は適切か?			
<p>①有効性 久山町総合計画基本計画の将来計画を実現するために有効な事業である。 事業の手法・活動内容は適切である。 事業の成果達成状況や進捗状況は順調である。</p>			
評価理由 Jクレジットの審査基準に基づき、事務手続きを進めている。			
<p>②効率性 事業費に見合った成果を上げている。 外部委託等(指定管理者を含む)による効率化が図られている。 実施方法の工夫により効果を維持しながらコスト削減を図っている。</p>			
評価理由 Jクレジットの審査基準に基づき、事務手続きを進めている。			
<p>③公平性・透明性 受益者負担について課題はない。(または、受益者負担を求めることが適当でない。) 事業費に占める一般財源の額は妥当である。 ホームページや広報を活用し、積極的に情報を公開している。</p>			
評価理由 Jクレジットの審査基準に基づき、事務手続きを進めている。			
今後の方向性			
<p>S重視化 成果が十分出しており、更なる事業の発展を図ることが適当である A推進 計画通り進んでおり、このまま事業を充実させることが適当である B改善 計画通り進んでいるが、実施方法の改善を検討する必要がある C見直し 計画どおり進んでおりず、実施方法を見直す必要がある D廃止 事業の廃止を検討する必要がある E事業完了 事業完了とする</p>			

自己評価の理由(今後の方向性等について具体的に)

Jクレジットの審査基準に基づき、事務手続きを進めており、R6年度は新規クレジットの認証を得ることができた。
また、町内林業経営体に活動助成金を交付できた。
今後は、新規クレジットの売買を進める必要がある。

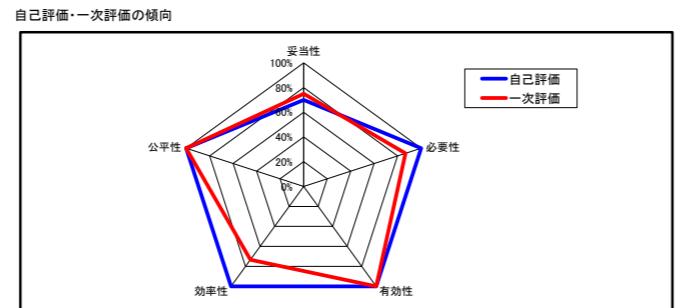
自己評価・一次評価の傾向

CHECK(評価)

自己評価	評価者	今任 邦徳	5 大 ← 小 1 1
1. そもそも必要な事業か?			
<p>町民のニーズが高い。ニーズが増加傾向である。 緊急性が高く、即時に実施しなければならない。 実施しなければ町民生活に及ぼす影響が大きい。 町民生活や町のイメージアップの向上に寄与する。</p>			
評価理由 二酸化炭素等の温室効果ガスの削減に寄与する自治体として、町のイメージアップにつながる事業である。			
2. 町が実施する必要があるか?			
<p>町が実施主体となることが法令等により定められている。 公権力行使、あるいは政策判断を伴い、民間等では実施できない。 民間等や国・県で実施するよりも効果的である。 民間等あるいは国・県で類似事業を実施していない。</p>			
評価理由 広範囲の森有林を有する久山町が実施することで、民間等が行うよりも大きな成果を生み出すことができる。また、温室効果ガスの減らしていく町民を考えるきっかけにもなる事業である。			
3. 実施内容は適切か?			
<p>①有効性 久山町総合計画基本計画の将来計画を実現するために有効な事業である。 事業の手法・活動内容は適切である。 事業の成果達成状況や進捗状況は順調である。</p>			
評価理由 Jクレジットの審査基準に基づき、事務手続きを進めている。			
<p>②効率性 事業費に見合った成果を上げている。 外部委託等(指定管理者を含む)による効率化が図られている。 実施方法の工夫により効果を維持しながらコスト削減を図っている。</p>			
評価理由 Jクレジットの審査基準に基づき、事務手続きを進めている。			
<p>③公平性・透明性 受益者負担について課題はない。(または、受益者負担を求めることが適当でない。) 事業費に占める一般財源の額は妥当である。 ホームページや広報を活用し、積極的に情報を公開している。</p>			
評価理由 Jクレジットの審査基準に基づき、事務手続きを進めている。			
今後の方向性			
<p>S重視化 成果が十分出しており、更なる事業の発展を図ることが適当である A推進 計画通り進んでおり、このまま事業を充実させることが適当である B改善 計画通り進んでいるが、実施方法の改善を検討する必要がある C見直し 計画どおり進んでおりず、実施方法を見直す必要がある D廃止 事業の廃止を検討する必要がある E事業完了 事業完了とする</p>			

一次評価の理由(今後の方向性等について具体的に)

Jクレジットの審査基準に基づき、事務手続きを進めており、R6年度は新規クレジットの認証を得ることができた。
令和6年度に新規クレジット認証を得ることで、環境問題に取り組む自治体として町のイメージアップにもつながる事業であるため、今後も新規クレジットの売買を進めていく。



ACTION(評価・改善)

ACTION(評価・改善)

ACTION(評価・改善)

ACTION(評価・改善)

自己評価、一次評価の結果を踏まえ、実施体系の進捗状況と照らし合わせ評価を行う。

自己評価、一次評価の結果を踏まえ、実施体系の進捗状況と照らし合わせ評価を行う。

自己評価、一次評価、二次評価の結果を踏まえ、実施体系の進捗状況と照らし合わせ評価を行う。

自己評価、一次評価、二次評価の結果を踏まえ、実施体系の進捗状況と照らし合わせ評価を行う。